



## ミミズの気持ち？

各事業所やフロアーに掲示

### 永 寿 会 通 信

## 黄色い飛行船 第20号

2016年 10月25日

10月13日ノーベル文学賞が発表され、多くの世界に名立たる作家や詩人を押しつけて、何とアメリカのソングシンガー、ボブ・デュランさんが歌手としては初めて、受賞となりました。彼は1941年アメリカのミネソタ州で生まれで75歳。1962年にデビューしており、半世紀以上の活躍をし続けております。日本にも8回ほど公演で来日しています。今回の例は英国のチャーチル首相が伝記で受賞して以来の出来事のようにです。今世界で読まれている文学者ではロマン・ロランやヘミングウェイ、ヘルマン・ヘッセ、タゴールも過去に受賞しており、日本では68年に川端康成や94年の大江健三郎も頂いています。今回も残念ながら日本の村上春樹は受賞となりませんでした。

「風に吹かれて」や「戦争の親玉」、「時代は変わる」で有名なデュランは反支配的な歌で少し意外な巡り合わせかなーと思います。しかし彼は、アメリカの詩人アレン・ギンズバークとの交流や、フランスの詩人ランボーを好んで読んでいたと謂われています。

ですからその歌詞が、人の機微に触れる深みを持つてることによって長く愛唱され、聞かれているのではないのでしょうか。そんな所を評価されたものと言えます。

また、長い歴史的伝統を持たないアメリカでは、文化的土壌に新たな詩的表現と息吹を吹き込んだとも言われています。

そしてこのニュースを聞きながら、何故かふと脳裏をよぎったのは「地中のミミズの気持ち」は「どうなんだろう」ということです。従来の偉大な文学者を超えて、評価された段差というか、次元から思い浮かんだのです。

歌は人の心を豊かにし、感情を広げます。

ミミズという地中の益虫？というか生物は目に見えないが大事な仕事をしています。一度地上に出れば干からびてしまいますが、大地の腐食物を咀嚼して地中を肥沃化させる貴重な生物です。コガネムシ等昆虫類の幼虫は地中で植物の根を食害したりしており、植物と共存する例は非常に少ないと思われれます。

現代では、トラクターや耕運機で土が攪拌されてしまうため、また、殺虫剤や殺菌剤が多用に散布され、生息が難しくなっております。こうした点が気にはなっていることもあり、ノーベル文学賞がボブ・デュランに贈られたように地中の「ミミズ君」に大きなエールを送ります。何かけつたいな話で申し訳ありませんが事実そんな気がしたので書き留めました。もしかすると私達の仕事は地上の「ミミズ君」と言えるかもしれません。

以 上